

武蔵野東海工場が竣工式

セブン-イレブン向けに弁当やおにぎりなどを製造する武蔵野が静岡県袋井市に建設していた東海工場が完成し、12日現地で竣工式を行った。来月10日から稼働する。

セブン-イレブンの大量出店に対応し、製造能力を高めて需要を取り込むのがねらい。

同社は静岡県内に静岡工場（静岡市清水区）と生産子会社の静岡フーズ（袋井市）の2工場があるが、静岡フーズの工場が老朽化したのに加え、需要増で手狭になったため、閉鎖して東海工場に移す。

新工場は静岡フーズの工場に比べて生産能力を2～3割上げる。弁当やおにぎり、寿司などを製造し、静岡県全域に供給する。「静岡県以外の地域にも供給を検討したい」とし、供給エリアの拡大も視野に入れている。



東海工場の外観



安田社長

竣工式には同社グループや袋井市、取引先など130名近い関係者が参加。安田信行社長は「武蔵野としては16番目の工場。1階に生産エリアを集約した衛生的にも、効率的にも動線のいい工場になっている。伸長しているチルド弁当に対応するため、チルド帯商品が供給できる新しい設備を積極的に導入した。米飯商品中心のためごはんのおいしさも重要。炊飯ラインにもこだわっている」と新工場を紹介した。

来賓挨拶したセブン-イレブン・ジャパンの鎌田靖取締役常務執行役員商品本部長は「セブン-イレブンで好調の“金の食パン”も武蔵野グループである武蔵野フーズが開発したもの。この東海工場からも“第2”の金の食パンが誕生するのを期待したい」と語った。



鎌田本部長